

持続可能な社会づくりに取り組む皆さんへ

学びを行動につなぐサポートBOOK

愛知県環境学習等行動計画2030 実践事例集



はじめに

「学習者が自発的に学び、行動し始める」を サポートしてみませんか？

「地球温暖化」「生物多様性」などのテーマがあると、ついつい「何（どんな知識）を教えるか」に注意が向きがちです。しかし、環境問題は日々刻々と変化する経済や社会と密接に関わっており、環境学習等^{*}にも、時と場合に応じて一人一人が適切な行動を積み重ねていけるようになることが求められています。このため、環境学習等で重要なのは、学習者（学びの主役）に「教える」ことではなく、「どんな力を身に付け、どんなことができるようになってほしいか」（講座・取組の**ビジョン**）を明確にし、そのために「どのような学び方が効果的か」（学習者への**サポート方法**）を工夫することです。

本冊子では、「環境問題を知っている」でとどまらず、「問題解決に向けて行動する」ことを目指し、「愛知県環境学習等行動計画2030」^{**}で示す「五つの力」を学習者が身に付けることをサポートするための**プロセス**や**工夫点**、**働きかけ方**などについて、身近で具体的な事例から分かりやすく紹介しています。

本冊子が、既に環境学習や環境保全活動に取り組んでいる方だけでなく、人材育成・教育に関わるすべての学校、事業者、NPO、行政等の方々にとって、持続可能な社会づくりやそれを支える人づくりを一層効果的に進めていく一助となれば幸いです。

※ 本冊子では、環境保全活動も実践を通じた学びの機会と捉え、「環境学習等」と呼んでいます。

※※ 「愛知県環境学習等行動計画2030」は、愛知県の環境学習等の方向性を示したものです。この計画では、一人一人が学びを行動につなぐために身に付けることが望ましい「五つの力」を示し、「家庭」「学校」「社会（事業者、NPO等、地域コミュニティ、行政）」において「五つの力」を育むことを念頭に置きながら環境学習等に取り組むこととしています。



学びを行動につなぐ「五つの力」

- ◆**体感する力**…自然の素晴らしさや環境の大切さを感じ取る力
- ◆**理解する力**…私たちの活動が環境に影響を与えていることを、自分のこととして捉える力
- ◆**探究する力**…環境問題を多面的に考察し、その本質や解決策を見つけ出す力
- ◆**活用する力**…環境を守るために必要な知識やスキルを自ら身に付け、活かす力
- ◆**共働する力**…共に未来を創り出すために、みんなとつながる力

目次

学習者の効果的な学びをサポートするためのポイント……………	3
事例からひもとく 行動につながる環境学習等とは……………	5
各事例の見方……………	5
▶事例1 「まず、やってみる」から引き出される気づきと意欲 ……	7
▶事例2 感覚・感情と結び付け、一人一人の答えを引き出す ……	9
▶事例3 学びを完結させない！ ……	11
▶事例4 簡単なしくみで“はじめての一步”を支援 ……	13
▶事例5 身近な機会で、一人一人ができるところから……………	15
ステップアップ・ワークシート……………	17



これから求められる指導者は、「学びのサポート役」

学習者の効果的な学びをサポートするためのポイント ～『五つの力』を効果的に育み、行動への意欲を引き出すために～

正しい知識を得ても「分かったつもり」のままでは、知識は活かされず行動につながりません。学習者が自発的に学び、行動につなげようとする意欲を引き出すには、どんな働きかけが効果的でしょうか。

「体感する力」を育む ～「環境の大切さを感じ取る」をサポート～

学習者は、体験する中で、気づきや疑問に出会い、関心を持ったことなどから主体的に学んでいきます。身近な自然や日々の生活など、あらゆるものが感性を磨き、「体感する力」を育む機会となります。学習者が様々な感覚や体全体を駆使して存分に体感できるようサポートしましょう。体験を効果的なものにするためには、体験から気づきを引き出すための仕掛けづくりとふり返りの機会を持つことが重要です。

なお、「体感する力」は、他の「五つの力」を育むことにもつながる、行動する人づくりの重要な基盤になります。

- ▶事例1 (p.7)
「まず、やってみる」から引き出される
気づきと意欲



「理解する力」を育む ～「自分のこととして捉える」をサポート～

環境のことをいくら知っていても、他人事の知識のままではなかなか行動につながらないのが実状です。実体験を思い起こしたり、未来の自分への影響を考えたりすることで、「理解する力」が育まれ、意識が変わって行動を後押しします。そのためには、実体験との接点（においや触感等）をきっかけに、気づきを促す声掛けや心が動くストーリー等により、感覚や感情に働きかけ、学習者が自分との関わりを見つけるのをサポートしましょう。

- ▶事例2 (p.9)
感覚・感情と結び付け、
一人一人の答えを引き出す

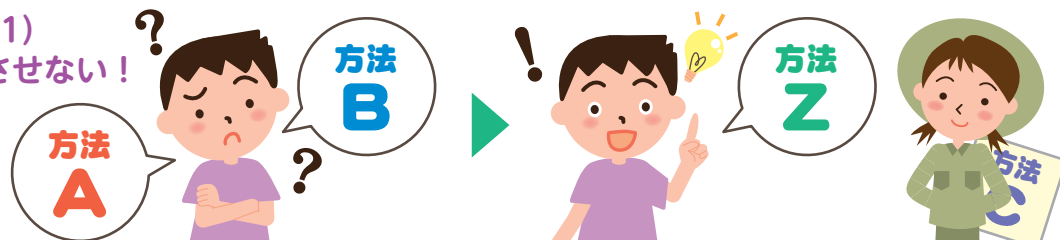


「探究する力」を育む

～「これはどうかな？あれはどうかな？」「もっと知りたい」をサポート～

1回の講座で「一つの答え」までたどり着く必要はありません。また、予想と異なる結果も、興味を引き出し、「探究する力」を育むチャンスです。指導者側の疑問や答えを学習者に「見つけさせる」のではなく、**学習者本人の疑問や答えを「見つけ出す機会を奪わない」環境づくり**により、探究するプロセスをサポートしましょう。そのためには、**リラックスできる雰囲気づくり**や、学習者の**言葉や反応を柔軟に拾い上げる**指導者側の心のゆとりが重要です。疑問に向き合いながら自ら本質に近づく楽しさを実感できると、さらなる探究への意欲につながります。

▶事例3 (p.11)
学びを完結させない！

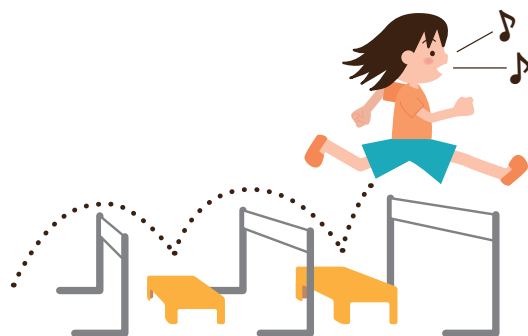


「活用する力」を育む

～「問題解決に向けて実践してみる」をサポート～

「やった方がいいことは分かっているけど…」と“知識はあっても実践しない状態”から脱却するために「活用する力」を育むには、「**実践しやすい環境づくり**」により、**学習者が無理なく実践を積み重ねられるようサポート**することが重要です。この時、「なぜそれが必要か」といった**意義が分かる**と納得や共感が得られやすくなるほか、「それがどんな結果に結び付くのか」といった**成果を実感**できたり、結果に至るまでの**フォローが得られる**ことで、実践へのハードルはさらに低くなります。試行錯誤を繰り返しながら実践の機会を増やしていくことが、より良い結果や新たな価値を生み出すことにつながります。

▶事例4 (p.13)
簡単なしくみで“はじめの一步”を支援



「共働する力」を育む

～「みんなで身近なところから、続く・広がる」をサポート～

「共働する力」を育むには、**手軽で多様な機会の創出**により、**誰もが環境と関われるようサポート**することが大切です。考え方やライフスタイルなどが異なっても、それぞれが関心や関わりのあることから入っていけば、どこかで環境との接点は出てくるため、必ずしも揃って同じ行動をする必要はありません。**違いを認め合う雰囲気づくり**を重視し、立場や状況に応じて適切な役割を担うことで、強みを活かしあいながら、無理なく大きな成果を生み出したり、新たな取組に発展させたりすることができます。

▶事例5 (p.15)
身近な機会で、一人一人ができることから



事例からひもとく 行動につながる環境学習等とは

ここからは、事例を通して、学習者への具体的なサポート方法を紹介していきます。

なお、事例の中には「五つの力」のすべてを育む取組も含まれていますが、「五つの力」は様々な機会の中で徐々に育んでいければ良いので、必ずしも五つすべてを一度に育もうとする必要はありません。また、五つを育む順番にも決まりはありません。

各事例の見方

①効果的な学びのための工夫点・働きかけのポイント

⑥関連するSDGs (右ページ参照)

育みポイント！

この事例では、本物の体験の中に宝探しゲームの要素を入れることで、興味・関心を効果的に高め、主体的な学びを引き出しています。体験中には、事業者がスタッフが見守りつつ、学習者が夢中にならないうまく学べるようにサポート。さらに、ふたつにより、体験を通して何を学び、どんな変化があったのかを学習者が実感できる、深い学びと行動のきっかけにつながる貴重な経験となっています。

事例 1

「まず、やってみる」から引き出される気づきと意欲

パソコンの再資源化に取り組むシーピーセンター株式会社（みよし市）では、小中学生や親子を対象にパソコン分解教室を実施。知識を教えるのではなく、本物に触れ、手を動かして能動的に関わることで体験の機会を提供しています。

協力：名古屋立舞小学校 名古屋市環境学習センターエコパルなごや
※分解教室で使用するパソコンは、事業者が有償物として購入しているものです。



■パソコン分解教室

- 1 お宝さがしのオリエンテーション
- 2 工具を駆使して分解している部品を発見
- 3 部品ごとに分別ボックスへ

■学校でのふり返し

- 4 学校に戻ってからクラス全体で感想を共有



②この事例で行われた主な取組

③学びのサポート役割側

(事業者・教員・自治会役員など)

- A 取組の目的
- B 取組時の工夫
学習者の効果的な学びをサポートする、具体的な働きかけ
- C 取組の成果

事業者の想い

機械に「触ってはいけない」とはよく、実際に触れることで、使用済みの物の中に様々な価値があることに気付いてほしい

事業者の工夫

「金やレアメタル、強力な磁石も出てくるよ」、「見つけた部品は持ち帰ってもいいよ」と目標を例示して楽しさを演出

教員の工夫

体験を環境面からふり返って深い学びにつながるため、「分解されないまま処分場に行ったらどうなるかな？」と問いかけ

事業者の成果

自社の強みを活かし、社会課題解決に向けた普及啓発を展開できたほか、次世代の育成にも寄与できた

学習者の状況

資源の大切さについて理解できるもの、どこか他人事で、遠い世界の出来事だと感じている

学習者の反応

あれが、もらえるんだ！ よし、がんばるぞ！

たくさんの種類の部品があるんだなあ この工具でうまく外せるよ

パソコンに集めると何か生まれ変わらそう！

絶対そのまま捨てちゃダメ！でも家でパソコンの分解はできない……じゃあ、自分たちでできることって何だろう？ そうだ！紙を分別しよう

学習者の変容

持ち帰った部品をもっと活用したい。経験を共有したほか、「資源の大切さ」が自分ごとになり、家でできることを自発的に考えるなど行動への意欲が育まれた

この事例に関連する主なSDGs



学習の効果&主に育まれる力

楽しい仕掛けで、目の前の目標に向かう意欲が引き出された

試行錯誤を繰り返す中で、部品の色や質感、重量などから、身近な機械が様々な資源で作られていることを実感

「分別」体験と「再資源化」の知識が結び付き、自分の行動で資源循環に貢献できることを実感

丸ごと廃棄された時のリスクに思いを馳せるとともに、自分自身でできることは何かを考え、気づきを得た



⑤③Bの工夫や働きかけによって得られた効果と、主に育まれる「五つの力」

④学習者（学びの主役）側

- A 取組前の状況
- B 取組時の反応
(③Bにより、どんな反応があったか)
- C 取組後の状況

「五つの力」を育て行動への意欲を引き出すには、ワクワクを演出して前向きな態度を引き出すことや、世界共通の課題と関連付けることも効果的です。

ワクワクを演出

必死で大事なことを伝えても、学習者に関心がなければ何も残りません。「本物の体験をする」「ゲームにする」など楽しい非日常空間を創出すると、心を開き、関心を持ってくれるきっかけとなります。また、「驚きや感動」「共感や納得」があると、学習者のやる気に結び付き、「見通しが立つ」「成果を実感できる」と、自ら学び、動くようになります。さらに、あえて手出しをしない「見守り」で学習者が十分に考える機会を確保することや、新たな視点を投げかける「ゆさぶり」で新たな気づきを引き出すことも、知的ワクワクを生み出すのに効果的です。

学習者と驚きや感動を分かち合い、未知の課題を前に一緒に悩み、考えながら、学びのサポート役自身もワクワクを楽しみましょう。

各事例では、こうした**ワクワク演出ポイント**を以下のマークで示しています。



SDGsとの関連づけ

SDGs（持続可能な開発目標 Sustainable Development Goals）は、持続可能な世界を実現するために2030年までに達成すべき国際社会全体の目標です。環境学習等に取り組む際にSDGsの17の目標と関連付けることで、以下の効果が期待できます。

- 身近な取組と身近な課題が、世界共通の課題と関連していることが分かる。
- 一つの取組がSDGsの複数のゴールに関連しており、一つの取組が複数の課題の解決に貢献できることが分かる。逆に、ある課題解決には関連する他の課題解決も必要であることが分かる。
- 持続可能な社会づくりの三側面（経済、社会、環境）が調和した未来を実現するために、今、何をしたらよいか具体的に考える一助となる。



事例 1

「まず、やってみる」から引き出される 気づきと意欲



パソコンの再資源化に取り組むシーピーセンター株式会社（みよし市）では、小中学生や親子を対象にパソコン分解教室を実践。知識を教えるのではなく、本物に触れ、手を動かして能動的に関わることでできる体験の機会を提供しています。

協力：名古屋市立鶴舞小学校 名古屋市環境学習センターエコパルなごや
※分解教室で使用するパソコンは、事業者が有価物として購入しているものです。



■ パソコン分解教室

1 お宝さがしの
オリエンテーション

事業者の想い

機械に「触ってはいけない」ではなく、実際に触れることで、使用済みの物の中に様々な資源があることに気付いてほしい

2 工具を駆使して分解
いろんな部品を発見

事業者の工夫

「金やレアメタル、強力な磁石も出てくるよ」、「見つけた部品は持ち帰ってもいいよ」と目標を例示して楽しさを演出

♥ ゲーム化

3 部品ごとに
分別ボックスへ

見回りながら、「！（驚きや感動）」に共感したり、「？（疑問）」に答えたりと、学習者の発見や学びを手厚くサポート

♥ 本物体験

♥ 成果実感

■ 学校でのふり返し

4 学校に戻ってから
クラス全体で
感想を共有

「分解することで、資源が生まれたね。持ち帰っても宝物にできないかもしれないなら、ここで分別して資源にしていってね」と、考える機会を確保

♥ ゆさぶり

教員の工夫

体験を環境面からふり返って深い学びにつなげるため、「分解されないまま処分場に行ったらどうなるかな？」と問いかけ

♥ ゆさぶり

事業者の成果

自社の強みを活かし、資源循環の促進に向けた普及啓発を展開できたほか、次世代の育成にも寄与できた



育みポイント！

この事例では、本物の体験の中に宝探しゲームの要素を入れることで、興味・関心を効果的に高めて、主体的な学びを引き出しています。体験中には、事業者側スタッフが見守りつつ、学習者が夢中になって主体的に様々なことを学び取るのをサポート。さらに、ふり返りにより、体験を通して何を学び、どんな変化があったのかを学習者が実感できる、深い学びと行動のきっかけにつながる貴重な経験となっています。

学習者の状況

資源の大切さについて知識はあるものの、どこか他人事で、遠い世界のことのように感じている

この事例に関連する主なSDGs



学習者の反応

あれが、もらえるんだ！
よし、がんばるぞ！



たくさんの種類の部品があるんだなあ
この工具でうまく外せるよ



ネジだけでも集めると
何かに生まれ変わりそう！

絶対そのまま捨てちゃダメ！でも家でパソコンの分解はできない……じゃあ、自分たちにできることって何だろう？ そうだ！紙を分別しよう

学習の効果&主に育まれる力

楽しい仕掛けで、目の前の目標に向かう意欲が引き出された

試行錯誤を繰り返す中で、部品の色や質感、重量などから、身近な機械が様々な資源で作られていることを実感



「分別」体験と「再資源化」の知識が結び付き、自分の行動で資源循環に貢献できることを実感



丸ごと廃棄された時のリスクに思いを馳せるとともに、自分にできることは何かを考え、気づきを得た



学習者の変容

持ち帰った部品をもとに家族と経験を共有したほか、「資源の大切さ」が自分ごとになり、家でできることを自発的に考えるなど行動への意欲が育まれた



事例 2

感覚・感情と結び付け、 一人一人の答えを引き出す



公益財団法人 愛知水と緑の公社が管理している浄化センターでは、小学生をはじめとする来場者を対象に、下水処理の施設見学と体験型講座を組み合わせたプログラムを実践。感覚・感情に働きかけるなど「記憶に残る」「記憶を呼び起こす」様々な工夫により、学習者の意識が変わるきっかけを提供し、行動を促しています。



公社の想い

「施設に行った」「体験した」だけで終わらず、水環境を大切にしている行動を促したい

■ 下水処理施設見学と体験型講座

1 処理前の汚水から 見学スタート

「感じたことを素直に教えてね」と、心と感覚を開いて、この場所ならではの体感を存分にしてもらう機会を確保

📍 本物体験

2 生物処理槽などを 巡った後、処理後の水を 視覚・嗅覚で確認

「見た目や臭いはどう変わった?」、「なぜきれいになるんだろうね」などの声掛けで、学習者の関心を引き出す

📍 驚き・感動

3 水を浄化する微生物を 顕微鏡で観察

観察後、「毒や、微生物が食べきれないほどの汚れがあると、どうなるかな?」と学習者の外の視点から問いかけ

📍 ゆさぶり

■ 家庭でのふり返し

4 水環境と自分との関わりを復習 & 海・川を守る ための行動宣言

家族と楽しめるシール教材で持続する学びを支援
宣言した行動の習慣化も「ご褒美シール」で応援

📍 ゲーム化

📍 成果実感



公社の成果

生活排水の環境負荷低減について考えてもらう機会を、学習者（来場者）だけでなく各家庭へも提供できた

育みポイント！

この事例では、実地で存分に体感できる環境づくりにより、生活に伴う環境負荷を実感できる忘れがたい体験で驚きや感動を効果的に引き出し、学習者の関心を高めています。また、視覚や嗅覚をきっかけに一人一人の記憶を呼び起こし、生き物への慈しみや快適な環境への憧れなどの感情に働きかけて、意識が変わるきっかけを提供。さらに、家に持ち帰ることのできる楽しいツールにより、ふり返りや家庭での行動を後押ししています。

学習者（来場者）の状況

自分の生活と身近な水環境との関わりはあまり実感できておらず、水の汚れは他人事

この事例に関連する主なSDGs



学習者の反応



超汚〜い！
忘れられない臭さ！



わあ、透明！
全然臭くない！
魚も泳げるんだ！



こんな小さな生き物が、汚れを食べてくれるんだ！食べられなかったら、汚いまま川や海に!?

魚や微生物を苦しめたくない…
「油を流さない」「洗剤を使いすぎない」ならできそう
宣言した以上、がんばるぞ！

学習の効果&主に育まれる力

自分の生活から出る汚水の行方や大量の汚水処理の大変さを実感



視覚や嗅覚で体感したことをふり返りながら、水処理のしくみに興味が高まる



目の前で動く微生物に親しみを感ぜながら、その浄化力の限界や、限界を生み出す原因と自分たちの生活との関係に思いを馳せる



家でできることをリストから選び、実践
家族みんなで取り組むことで、より大きな効果を実感



学習者の変容

水環境のことを気にかけるようになり、水の使い方を
見直すきっかけになった



事例 3

学びを完結させない！

～見守りと投げかけで引き出す、つながる喜びと次の疑問～



おいだいら
生平小学校（岡崎市）では、児童の知識・技能や思考力・判断力・表現力等を高める機会として、伝統的に取り組んできた愛鳥活動を最大限に活用。さらに、児童の発案から、身近な外来種調査にも取組を発展させています。



知識・技能、表現力の向上に活かす

- 1 野鳥の特徴が一目で分かる
ギャラリー
- 2 野鳥検定
& 要点バッチリ！対策プリント
- 3 探鳥会で観察記録カード作成
(1種/枚)

教員の想い

37年の歴史ある伝統的な取組
活動をもっと楽しんでもらいたい
そして、学びの醍醐味を実感してほしい

一部児童と教員の工夫

コメント付き写真で分かりやすく伝授



無理なく取り組める発達段階別で
学びを応援



カードは項目数の精査と小型化で記録の
労力を軽減



シールでがんばりや努力の見える化



思考力・判断力の向上に活かす

- 4 愛鳥活動のふり返りで
気になったことを話し合う
- 5 市や地域団体との連携で
「外来種に食べ物を奪われた」
仮説を検証（外来種調査）

教員の工夫

学習者の疑問にあえて答えず、探究をせ
かさずに「なぜ？」の持続を確保
行き詰まった時は、新たな視点の投げか
けやヒント出しでサポート



結果をすぐに求めず、そこに至るための
方法を身に付けてもらえるよう、段階を
分けてこまめにサポート



課題解決の手順を体験してもらえるよう、
実社会と連携する環境づくりにも尽力



学校の成果

野鳥への関心が高まり、取組を一層楽しんでもらえるよう
になった

さらに、実践的な学びの機会にも発展させることができた



育みポイント！

学習者が発想を膨らませて探究するには、ある程度の経験と知識が前提となります。この事例では、本物体験をより充実させる知識を、学習者が自発的に身に付けられるよう支援することからスタート。持続する問いは探究を深め、広げるきっかけになることから、適切にサポートしつつ自主的な発見を待つ“見守りの姿勢”に徹しています。その結果、想定外の新たな課題の発見につながったのは、学習者が深い学びに至った何よりの証。実社会での課題解決に向けた取組にもつながるなど、その後も発展し続けています。

学習者（児童）の状況

「野鳥のことを知っているとか何かいいことがあるの？」
地域で伝統的に取り組まれてきた愛鳥活動に対する
関心が、以前に比べて低下している現状

この事例に関連する主なSDGs



学習者の反応



探鳥会で本物を見てみたい

もっと野鳥に詳しくなりたい

初めて見た！感激！
観察で鳥が分かると楽しい！もっと描きたい

学習の効果&主に育まれる力

何度も目にするうち、野鳥への関
心が高まった



ある程度知識が増えたことで、
もっと知りたいという意欲が高
まった



野鳥の特徴を目や耳で実感
アウトプット前提のため、観察に
も一層力が入った



学習者の反応

今年はカモがいなかった。原因は何だろう……？
カモの食べ物を外来種が食べちゃったとか？調べて
みたい！

足跡があった！
糞もあれば、外来種か確認できるかな？
他にどんな方法で仮説を確かめられるかな？
専門家はこんなふうに調べてるんだ！
調査には手続きが必要なこともあるんだね

「なぜ？」を深める中で、様々な
知識・経験がつながって新たな
課題と出会い、仮説を立てるに
至った



仮説検証の過程で実践的な探究
を重ねることができた
自分たちだけではできないことも、
他からの協力を得ることで実現
できるという経験も得られた



学習者の変容

知識・経験を基に、新たな課題を発見
それに向けた探究から、取組が発展しつつある



事例 4

簡単なしくみで“はじめの一步”を支援 ～実践が学びと気づきの機会に、積み重ねで習慣に～



スーパーマーケットを展開するユニー株式会社では、持続可能な社会を目指し、未来の子どもたちに美しい自然を残すため、顧客である地域の消費者・従業員（直営及び専門店）など関係者みんなで実践しやすいしくみを取り入れ、社内全体で共有。様々なエコ実践をみんなで積み重ね続け、習慣にまで発展させています。



事業者の想い

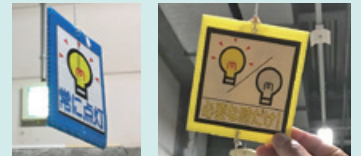
「お客様と共に」「関係者と共に」持続可能な社会づくりをしたい

従業員向けの取組（店舗バックヤード）

一目瞭然！照明「点ける or 消す」表示
青ラベル：安全等のため常時点灯
黄ラベル：必要な時だけ点灯

事業者の工夫

きめ細かなON/OFF対応ができるプルスイッチ付き電灯を活用し、ラベルで色分け



♡ 見通しOK

資源・ごみ分別がラクラク！
判断基準の簡単な説明と例示写真

初めて入店するスタッフの立場になって、分かりやすく、すぐにできるしくみを徹底例示がなくても判断できるよう表現を工夫

♡ 共感・納得

顧客向けの取組（リサイクルボックスの設置）

“きちんと分別”をサポート
リサイクル製品の展示

回収後はどう生まれ変わるかを見える化



♡ 共感・納得

資源回収量やCO₂削減量を表示
例：「1本につき ○○g削減」
「当店の前月の回収量○○kg」

成果を実感できるようきめ細かにフィードバック



♡ 成果実感



事業者の成果

簡単なしくみにして社内全体で共有することで、“エコのバリアフリー化”を実現



育みポイント！

この事例では、課題の解決に向け、学習者が見通しを持つことができ、「やってみる」への抵抗感が小さくなるよう、学習者の“はじめの一步”をサポートしています。また、やった成果が目に見えて分かる“フィードバック”があることや、「やってみたら簡単だった」という実感が、更なる継続への後押しとなっています。

学習者（従業員・顧客）の状況

エコの取組度合いやごみ分別ルールも様々（従業員）
エコに取り組んでも結果が見えない（顧客）

学習者（従業員）の反応

初めて勤務した日でも、「ここは点けたままでいい」
「あ、ここは消しておこう」と迷わず実践できます



「ぬれた段ボールは再生に不向き」などと、実践の度に学べます

学習者（顧客）の反応

だから、きちんと洗って分別する必要があるんですね

温暖化防止や資源の有効利用に貢献できたことが分かり、牛乳パックや缶を持ち込んだかいがあります
資源リサイクルループ構築に貢献できます

学習者の変容

実践を重ねるうちに、やらないと落ち着かないほどになった（従業員）

消費者としての責任を感じられ、もっとがんばろうと思うようになった（顧客）

この事例に関連する主なSDGs



学習の効果&主に育まれる力

実践を数多く繰り返すことで節電が習慣化



資源やごみの行方に思いを馳せながら実践を繰り返すことで、徐々にエコ・センスが磨かれた



自分の行動と資源の有効利用との関わりを実感し、資源を大切にしようとする意識が醸成された



環境への寄与や力を合わせるこの効果を数値で実感でき、更なる行動への意欲が育まれた



みんなで、いつでも、らくらくエコ



事例 5

身近な機会で、一人一人ができるところから ～環境課題と他の課題を併せて解決～



旭丘連合自治会（尾張旭市）では、身近な取組を活かしきすることで、多様な地域住民が無理なく実践できる機会を提供。各家庭単位でのエコ実践を後押ししながら、福祉や安全・安心など他の地域課題の解決にもつなげています。



自治会役員の想い

各家庭に最も近い組織として、皆で話し合っって作った「安心して暮らせるこんな町がいいね」リストを、一つずつ実現していきたい

■ ゴミ減量の取組が高齢者の見守りへ発展

資源回収の拡大

自治会役員の工夫

各戸回収、頻度や品目の拡大で資源化を促進

「離れた位置から見える」にこだわって資源回収カレンダーを作成

♡ 見通しOK

間違いの多い「雑がみの扱い」を回覧で重点啓発

♡ 共感・納得

■ 地域の取組をエコ行動のきっかけに

街灯のLED化

追加設置分は住民から候補地を募集

♡ ゆさぶり

“LEDで節電→温暖化対策”も啓発

♡ 成果実感

3Rポスターコンクール
テーマは従来の「リサイクル」から拡大

家族で標語を考えてもらえるよう、地域の子どもから募集

♡ 共感・納得

応募全作品を公民館で掲示

地域行事（エコフェス）で表彰式

世代を問わず参加できる「エコフェス」
フリーマーケット
パッカー車ごみ入れ体験
生ごみたい肥で育てた野菜で豚汁

子育て世代が中心になって企画づくり

♡ 共感・納得

手軽な体験の機会をいろいろ創出

参加者にマイ箸・マイ椀の持参を呼びかけ

♡ 本物体験



自治会の成果

安全・安心な地域づくりを進める中で、各世代に様々な視点から少しずつ環境啓発を行うことができています

育みポイント！

様々な地域課題のほとんどは、持続可能な社会づくりに関わるもの。この事例では、高齢者の負担軽減（福祉）をきっかけに資源回収（環境）を拡大し、それが高齢者見守り（福祉）へと発展したり、防犯の取組に環境の視点を入れたり、身近な取組を活かしきることによって、無理なく様々な課題の同時解決を図っています。

違いを認め合いながら、「～ねばならない」ではなく「～のいいかも？」を心がけ、それぞれできることから関わることで、目指す未来像を分かち合い、より良い地域づくりにつなげています。

学習者（住民）の状況

- ・外出が困難な高齢者がいる
- ・地域の課題への当事者意識はあまりない
- ・地域の活動に参加する若手が少ない

この事例に関連する主なSDGs



学習者の反応

集積場まで行く必要がなく、家も片付きます
冷蔵庫まで見に行く必要がなく助かります
疑問に思っていたことが分かり、スッキリ！
老人クラブでも各戸回収を追加し、高齢者への声掛け・見守り活動に発展

学習の効果&主に育まれる力

実感できるメリットが、分別の習慣化を後押し
力を合わせることで、一人一人の負担を軽減できることを実感



どこが暗いか考えながら歩いたのは初めて
自分も安全・安心を守る一人と自覚しました
途中、身近な自然の豊かさにも気づきました
LEDの良さに気づき、他の省エネ機器も導入しました

地域と地球環境問題とのつながりに気づいた



標語を考えながら、家族で学び合えました
顔見知りの作品だからこそ、心に響きます

呼びかけ側の視点からエコを考える機会を得た
家庭内・地域内での世代を超えた学び合い・育ち合いが促された



子ども服を融通しあえ、家計も大助かり
ごみの^{かさ}高を減らそうとか、水切りした方が衛生的だな、などと実感しました
漆椀の方が美味くて、ごみもたくさん減らせる！

エコのメリットや簡単さを実感
日常生活の様々な場面で取組の機会があることに気づいた
地域活動に対する若い世代の関心が高まった



学習者の変容

ニーズが満たされたうえ、課題解決にも寄与する機会を得て、自身の生活と地域社会の両方の質の向上につなげることができた



ステップアップ・ワークシート

～ 学習者が主役のより良い学びのために、じっくり向き合ってみませんか ～

あなたが既に行っている取組も、これから新たに始めようとする取組も、この機会にワークシート（事例ページの白紙様式）に書き出して、じっくり向き合ってみませんか。改めて言葉にして客観視することで、取組の質をさらに高める気づきが得られるかもしれません。取組後のふり返りにも活用して、更なる改善につなげましょう。

ステップアップ・ワークシート

取組の名称等	ねらい ア
取組の内容	工夫 ウ(A) ウ(B)
	成果と課題 キ

■ 取組前に記入

ア ねらい

目的（何のために行うか）、学習者が取組を終えた後、どうなっていてほしいか（ビジョン）を具体的に意識することが第一です。身近な課題と結び付けると、社会的意義が一層感じられるでしょう。

イ 学習者の状況

学習者の状況により、働きかけ方は変わってきます。はじめにしっかり把握しておきましょう。

ウ 何をするか（A）／どのようにするか（B）／取組により育みたい力（C）

アの実現に向け、学習者にどんな力を育みたいか、そのためには具体的に何をするか、そしてその時どう働きかけると効果的か、考えてみましょう。

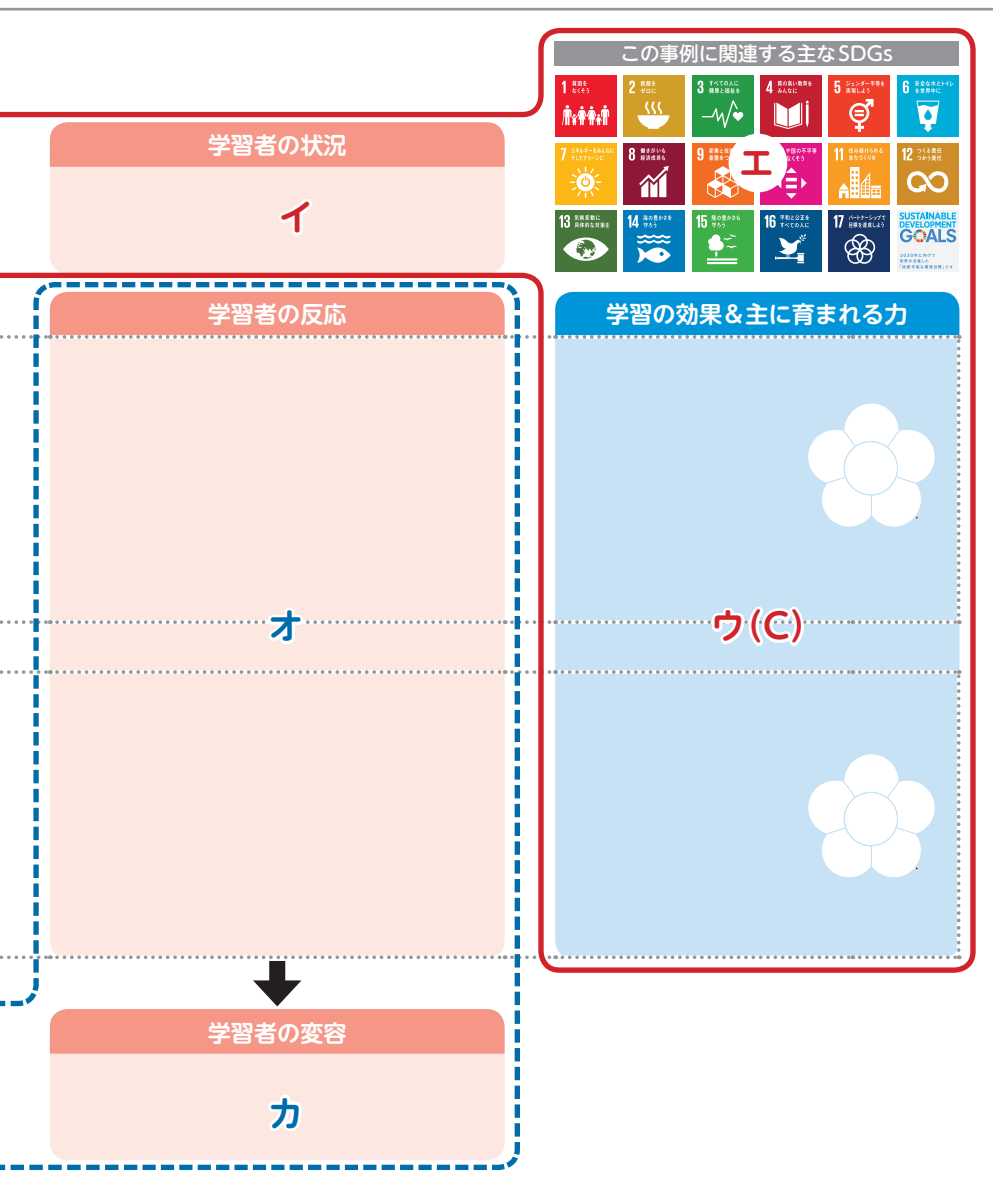
エ 関連するSDGs

取組に関連する主なSDGsを気軽に選んで○を付けてみましょう。

ワークシートは下記ページからダウンロードできます。

学びを行動につなぐ
サポートBOOK

<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/kankyokatsudo/power-for-action.html>



取組後に記入

オ 学習者の反応

取組後には必ずふり返りの機会を持ち、学習者の反応を思い返して書き出しましょう。思わぬ気づきが得られ、手法の見直しにつながるかもしれません。

カ 学習者の変容

取組後には、学習者の変容を必ず把握し、書き留めて次回への改善につなげましょう。アンケートなどで「最も気になった

こと」や「心に残ったこと」を書いてもらうと、学習者がどんな時に心を動かされたか、深い学びに至ったかといったことがつかめます。

複数回・長期間にわたる取組の場合、取組の前と後で同じ質問をし、その回答の差から学習者の変容を把握することもできます。

キ 成果と課題

ふり返った結果、気づいたことは見直してア～エに反映させ、次回以降の取組に活かしていきましょう。

ご利用ください **CHECK!**

実体験のできる施設や専門的な人材の活用などによる実感を伴った学びは、行動につなぐ意欲を引き出すのに効果的です。

まなびや

もりの学舎で自然を体感!

愛知万博で行われた取組を継承するもりの学舎（愛・地球博記念公園内）では、森の案内人インテプリターによる「もりのツアー」など多彩な自然体感プログラムを行っています。こうしたプログラムでは、自然についての知識を得るのではなく、参加者が感性や想像力を働かせて自然とふれあう中で、自然の素晴らしさや価値について様々な気づきや発見に出会うことができます。



あえる

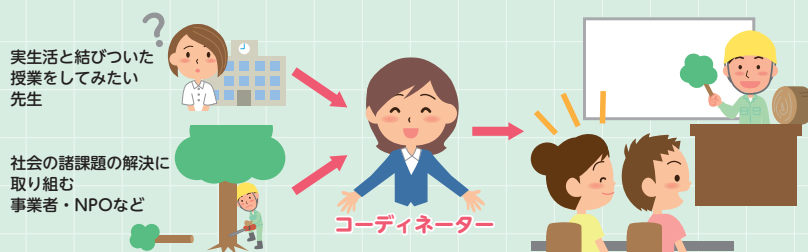
AEL ネットの施設で、気軽に楽しくいろんな視点から♪

AELネット（愛知県環境学習施設等連絡協議会）の加盟施設等では、自然、ごみ、水環境など体験や学習の場を提供しています。加盟施設等は県内に200以上あり、楽しく学ぶことができます。



コーディネーターが連携をお手伝い

「外部の人材を活かして学習を組み立てたいけれど、『誰に?』『どんなことを?』頼めばいいのか分からない……」そんな時は、講師、教材、場所、施設などの紹介や調整を行う環境学習コーディネーターにご相談ください。適切な講師の紹介や内容の調整について、お手伝いします。



問合せ先 **あいち環境学習プラザ** Tel.052-972-9011

愛知県環境部環境活動推進課

〒460-8501 名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
Tel.052-954-6208

2019年3月発行

